

研修報告

2004 インドネシア 植林フォーラムに参加して

東海防災 深津康文

去る11月19日から24日までの6日間、オイスカ静岡県支部の「インドネシア植林フォーラム」に参加しました。場所はインドネシア共和国のジャワ島です。私はソーラー発電の営業をさせてもらう中で環境団体の方やお客様と環境の話をする機会が多いのですが、植林フォーラムについては活動している事は聞いていたのですが、具体的にどのような活動がされているか知らなかったため、参加させて頂く中で少しでも吸収して、今後に生かす事が出来ればと思います。出発の日を心待ちにしていました。

東名集中工事の影響もあり予定より早い11月18日の夜、浜松を発ち成田から7時間以上かけて、ジャカルタ空港へ到着しました。初日に泊まるジャカルタ市内のホテルに到着し

いというお話を聞きました。私の感覚では可哀想だと同情したくなる思いだったので、その方の「だからと言って幸せでないとは限りませんよね。」という一言に大変考えさせられました。

また、地球環境問題の件では正直、インドネシアでこれは環境破壊が進んでいるという感覚は持つことができなかつたのですが、ジャカルタ空港から成田空港へ到着し成田空港をでた時、11月後半の日本の日本と赤道直下のインドネシアと体感気温が変わらない事にやはり温暖化は進んでいるのかと思いました。環境問題は数字の上で比較はできませんが、実感としてなかなか感じる事が出来ないのどれ程、深刻な問題か判りにくいという事があると思います。仕事で環境問題に触れる事が増えて「環境の為に何かしなければ！」とは思いますが個人レベルで地球環境の為に、問題が大きすぎて何をしたらいいのか判らない」というのが現実だと思えます。今回の植林フォーラムで再度、環境について

たのが予定より1時間ほど遅れたのですが、現地オイスカのスタッフの皆様が熱心な歓迎を受け、皆さんと一緒に夕食を食べながら現地の状況や現地での注意点などを教えて頂き、インドネシアやイスラム教の風習などを勉強してもらいました。到着した日がイスラム教のラマダン（1ヶ月の断食）が終わり、断食明けの祭典「イード・ル・フィットル」という日本というお盆と正月がくつついたような行事の最終日でジャカルタの町は人で溢れかえっていました。日本人は大変危ないという事で明日を楽しみに早めの睡眠を取りました。

2日目の朝、ジャカルタを出発し、スカプミ県スカプミ市に向かいましたが断食明けの祭典の帰省ラッシュと重なり予定よりも3時間以上遅れ、オイスカ研修センターに到着しました。ここでも3時間の遅刻にも関わらず



ず現地スタッフの方の歓迎を受け、現地の方が作ってくれた食事を頂きました。現地研修所では、自給自足しながら技術者を育成するために農業、木工、女性生活改善、菊栽培などの分野で人を育てつつ、現地で販売して生計を立てているそうです。中でも驚いたのが、研修センターで育てられた菊は渥美半島へ輸出され、このセンターの重要な資金源になっているとの事でした。ここで働いている方達は、日本に留学されたか、これから留学される方達で、皆さん日本語が上手く木の育て方等多くの事を教えて頂きました。

実際に3日目より植林活動を行い、スカルワング村で5年で10mになるアルベシアの木を2000本、チアンジュールで家具材として知られているチークの木を250本、チンタ・レスミ小学校でアリカティアンの木を校庭に一人一本ずつ計3箇所で活動を行いました。すべての場所地元の小學生と父兄の方と一緒に植林をしたのですが、子供達が元気に素手で穴を掘ってくれる姿が大変、印

未来の子供たちに

品質環境グループ 宮本 隆

2004年11月4日にロシアのプーチン大統領が京都議定書（1997年 京都会議）批准法案に署名した今回の署名後、ロシアの京都議定書批准書の国連への寄託が実施され、90日後（2005年2月）に議定書が発効します。

日本は2008年から12年の温室効果ガスを1990年比で6%削減することを義務付けられているが、2002年度の総排出量は1990年比より約7%増加、また2003年度の速報値でみると8%増加しています。現時点では約14%削減しなければならぬという容易ならざる数字が日本国民全体の肩にのしかかっています。

環境問題がニュース等で取上げられ、少しずつ人々の考えも変化してきましたが、いよいよ京都議定書が発効

象的でした。私は植林活動で想像していたのが緑のまったくない禿げ山の様な所に、私の知らない技術を駆使して緑を増やして行く事だと思っていたので雑草で覆われた地面に植えていく事が不思議でしたが、乱伐され地面を守る木がない為に、毎年雨季になると水害に悩まされている地域だと教えて頂きました。また、インドネシアでは太陽の恵みを沢山受けられるお陰か、木の成長が早く5年で10mを越す木が多く在る事がわかり、日本よりも早く植林をした効果が出て来るそうです。

この研修に参加させて頂いて、考えさせられた事は、一緒に植林をしてくれた子供達は大変明るく活発でエネルギーに溢れて見えたのですが、日本の子供なら小学校3年生位の子供が実際は6年生だったり、日本の子供よりもずいぶん発育が遅いという実感を受けました。日本人の現地NGOのスタッフと話をし、貧困の為、栄養不足で発育が遅れている子が多く、また医療施設も存在しない為平均年齢も58歳と短命の方が多

する事で、目的目標が数字で具体的に示され、私たちの「やるべき事」を明確にし、行動して行く事がもっとも重要ではないかと考えます。つまり「自然環境に悪い事は何か？」「自然環境に良い事は何か？」をきちんと考え、それに対して行動して行く事です。

自然環境の事を考えず行動すれば、自然環境破壊のシナリオは、時間と共に進み未来の子供たちに「悪い結果」を残す事になります。自然環境を取り戻すには、時間がかかります。まず、大人たちが自然環境に対して目を向け、耳を傾け、自覚し、行動し続けなければなりません。

中村建設ではISO14001の活動を通じて、がんばって行きます。

